

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| ○「芸術と実生活」について..... 1           | ○対談「自分史を語ろう」..... 6  |
| ○第四回特別企画展..... 2               | ○「250号・55周年記念 詩誌『沙漠』展<br>—ここにある ここに立つ そして歩む—」..... 7                     |
| ○「与謝野寛・晶子展—恋ひ恋ふ君と—」            | ○詩誌「沙漠」主催 文学講座   |
| ○高橋睦郎氏 講演会「新しい詩歌の母神 晶子」        | ○交流ステージ&ワークステーション<br>「小倉五行歌会五周年記念作品展」<br>子ども文化ふれあいフェスタ<br>「落語っ子 落語であそぼう」 |
| ○文学講座                          | ○予告..... 8   |
| ○「くまの子ウーフとたのしい仲間たち 神沢利子展」... 4 | ○資料寄贈者・提供者・受贈雑誌一覧  |
| ○神沢利子さんおはなし会「同じうたをうたい続けて」      | ○文学館文庫の出版  |
| ○手芸教室「ウーフを作ってみよう」..... 5       |  |
| ○ブックトーク+クイズラリー                 |  |
| ○16mmフィルム「ちびっこカムのぼうけん」映写会      |  |
| ○佐木館長と学ぼう!こどもペンクラブ             |  |



# 「芸術と実生活」について

館長 佐木 隆三

文芸評論家平野謙（一九〇七〜七八）は、その著書『芸術と実生活』（一九五八年刊）のなかで、作家の生活と芸術との関係、とりわけ芸術家のエゴイズムと庶民倫理との

背反に着目し、私小説作家に対して鋭い批判を展開しました。庶民の味方のようなふりをしながら、高級な別荘に住んで贅沢な暮らしをしているのは、どういうことなんだというわけです。こういう視点の文芸評論は、わが国では初めてで、平野謙の画期的業績とされています。

日本文学の主流は自然主義で、私小説が理想型とされてきました。大正時代に夏目漱石や森鷗外が、尊敬されながらも傍流として扱われた理由は、ここにあったのです。それを平野謙が、敢然と私小説批判をおこなったのだから、たいへんな出来事でした。プロレタリア文学の旗手だった作家が、「文筆労働で得た報酬で別荘を購入してどこが悪いのか？」と、文学雑誌のエッセイで息巻いたりしたものです。

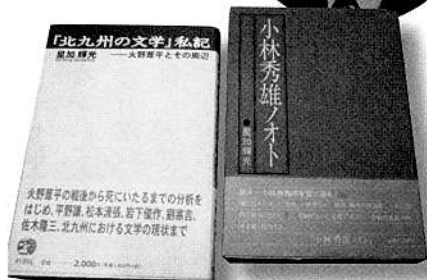
一九六五年秋ごろ、八幡製鐵所を辞めて文学運動をしていたわたしは、平野さんを招いて小倉で講演をしてもらいました。背が高くギョロリと目を光らせる評論家は、島崎藤村が臨終の友人を見舞い、「死ぬって

どんな気持ち？」と問いかけたことなどを話したから、「さすが『芸術と実生活』の著者だ」と興味津々でした。

今回こうして『芸術と実生活』を持ち出したのも、北九州市立文学館は、もっと文芸評論に目を向けなければならぬと思うからです。今年三月に亡くなった星加輝光さんは、文芸評論一筋で活躍なさいました。文学館の開設備委員としても尽力され、八十八歳で天寿を全うなさったわけですが、わたしなどは未だ喪失感にとらわれています。そうであれば、星加さんの文学的業績を、きちんと顕彰しなければなりません。資料をお持ちの方は、ご協力をお願いします。



星加 輝光氏



## 企画展

「生誕一〇〇年記念

伊馬春部展

「向う三軒両隣の時代」

木屋瀬出身の劇作家で放送作家の伊馬春部の生涯と作品を紹介いたします。

### 《主な展示品》

自筆創作メモ、太宰治からの書簡、テレビドラマ「夕餉前」台本、ラジオドラマ「向う三軒両隣り」台本、草稿「木屋瀬中学校校歌」、遺愛の品ほか。

\*開催期間 9月27日(土)

〜11月30日(日) ※月曜日休館

(ただし月曜日が休日の場合は開館、翌日休館)

\*入場料 一般二〇〇円、

中高生一〇〇円、小学生

五〇円(年間パスポート適用)



昭和29年4月 連続ラジオドラマ「本日は晴天なり」の収録スタジオにて